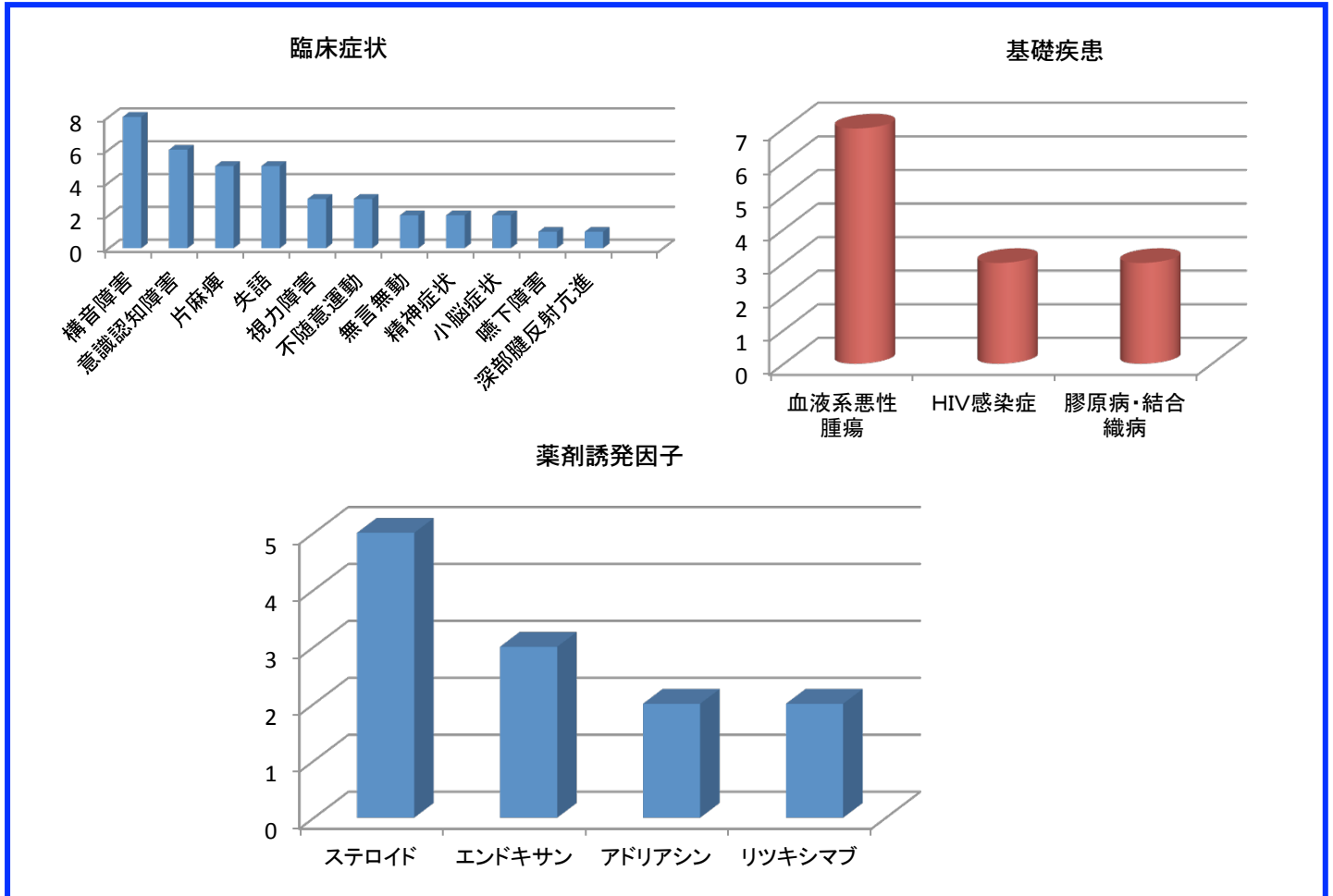


## 最近の本邦PML臨床調査(2010-2011)

研究分担者: 都立駒込病院 岸田修二



### 解説

- 2010年6月より2011年9月まで国立感染症研究所へ髄液JCV-PCR検査依頼のあった15症例(髄液中JCV-PCR陽性例)に関して症状、画像、検査、基礎疾患、薬剤誘発因子を中心に検討した。
- 症状は15例中8例(53.3%)で構音障害、6例(40%)で意識認知障害、5例(33.3%)で片麻痺、5例で失語、3例(20%)で視力障害、3例で不随意運動、2例(13.3%)で無言無動、2例で小脳症状、2例で精神症状、1例(6.7%)で、嚥下障害、深部腱反射亢進をそれぞれ認めた。本報告では構音障害が多かったことが特徴であった
- また、脳MRI上の病変は大脳白質が13例(86.7%)、小脳白質が4例(26.7%)、脳幹部が3例(20%)、大脳基底核が1例(6.7%)であり、またその分布は両側左右非対称性が11例(73.3%)、片側性が3例(20%)、両側左右対称性が1例(6.7%)であった。さらに大脳萎縮は5例(33.3%)、Gd増強効果は2例(13.3%)で、mass effectを示した症例はなかった。本報告では大脳萎縮を示す症例が多かった
- 髄液検査では、髄液蛋白増加が7例(46.7%)、細胞増加が5例(33.3%)であった。また髄液異常を示した症例が多かった
- 基礎疾患としては悪性リンパ腫4例(26.7%)、サルコイドーシス2例(13.3%)、AIDS2例、多発性骨髄腫1例(6.7%)、慢性リンパ球性白血病1例、肉腫(spindle cell sarcoma)+急性骨髄性白血病1例、肝細胞がん+SLE1例、溶血性貧血1例、原発性免疫不全症(Kostmann型先天性好中球減少症+IgA欠損症)1例であり、糖尿病合併例が2例、C型肝炎合併例が1例であった。日和見感染症では帯状疱疹合併が3例(20%)、真菌感染症合併が2例(13.3%)、サイトメガロウイルス合併が1例(6.7%)、HHV6脳炎合併が1例であった。基礎疾患としては血液系悪性腫瘍が7例と多く、次いでHIV感染症3例、膠原病・結合織病3例と非HIV-PMLが多いことが特徴であった
- 薬剤誘発因子では、プレドニン単独療法2例、ダウノマイシン、エンドキサン、R-CHOP(リツキシマブ+エンドキサン+アドリアシン+オンコピン+プレドニン)、CHOP(オンコピン+アドリアシン+エンドキサン+プレドニン)+THP-COP(ピラルピシン+エンドキサン+ピンクリスチン+プレドニン)+リツキシマブ、メソトレキセート+アドリアシン+シスプラチン//MTX+シタラピン+プレドニン、ミリプラチン、レクシヴァ+エビピル、インターフェロンであった。また集計するとはステロイド使用症例が5例、エンドキサン使用症例が3例、アドリアシン(トポイソメラーゼ2阻害)使用症例が2例、リツキシマブ(抗CD20マウス-ヒトキメラ型モノクロナル抗体)使用症例が2例であり、近年の報告の特徴と一致していた。